

キラキラ星の輝き

今 溝 孝 男

木枯らしが吹きすさぶ季節になると、LEDを沢山使用したイルミネーションが街のいたるところに綺麗に装飾されて輝き、人々のともすると経済的に或いは社会的に暗い話題が多い世の中で、身も心も凍りつき消えてしまいそうになりますが、このようなキラキラとした光景を見るたびにになにかしらほっとして見とれてしまいます。

天空に輝く星々も冬の季節はキラキラと鋭い光を放って煌めいているように感じます。

冬は西高東低の独特の気圧配置となり北風が強く吹きます。このため星の瞬きも一層強く瞬いているように見えます。この瞬きのことをシンチレーションと呼び、地球の大気に流れ（ゆらぎ）である風等によるものです。一見すると瞬きはキラキラとしてとても綺麗に思えるのですが、天体観測をする上では厄介な存在なのです。ではどんな事で厄介なのかと言いますと、たとえば、キラキラ輝く星の間近を巡る伴星を観測する際にこのシンチレーションが邪魔をして二つの星として分解して見る事ができないのです。特に最近脚光を浴びている系外惑星の発見にはかなり悪い影響があります。従って、スバル望遠鏡を始めとする世界の大望遠鏡を備える天文台はシンチレーションの影響を受けないよう、より空気の薄い高い場所へと観測に適した場所を求めて天文台を建設しています。また、適材地だと思われる土地での観測でもまだ微妙にシンチレーションの影響が出るため、これらを解消するために最新技術を駆使し、望遠鏡のミラーを小刻みに動かしてシンチレーションを打ち消す装置を作成し観測を行っています。デジタルカメラの手振れ補正装置と似たようなものです。この技術により格段に観測性能が向上しま

した。

しかし、今の観測機器でも観測に限度があります。そこで次はどうするかと言うと、ゲーテ曰くではありませんが、「もっと光を」なんです。宇宙はとてつもなく広い世界です。この広い宇宙のより遠くを知るためには、口径の大きな望遠鏡が必要になります。

今、天文界には口径30メートルの反射望遠鏡を作ろうと言う構想があります。大口径の望遠鏡が建設され観測成果が出始めると今まで分からなかった現象が多々解明されるでしょう。しかし、その反面、謎はさらに謎を生むことにもなります。

こうしている間も様々な方向から、何千年何万年前にその星を発した光が地球に届いています。一見すると、平面に張り付いているように見える星も実は、長い長い距離を経て年月をかけて地球に届いています。今地上に届いている星の光は、何万年も前にその星を発した光がやっと辿りついているのです。

冬の星座で有名なオリオン座の脇を天の川銀河が北へと流れています。その天の川が西の地平線に流れ込もうとしている付近に、七夕伝説で有名な星たちが輝いています。七夕の季節には決まって主役になる星ですが、冬の季節も隠れた主役なのです。

西の空に見るその星座の姿は、丁度相合傘を中心に織女と牽牛が左右に輝くといった光景に見えます。この光景を構成する星座は、はくちょう座・こと座・わし座の三星座です。

はくちょう座は別名「北十字星」とも呼ばれています。南に輝く南十字星に対応して名づけられています。このはくちょうの十字を挟んで、二つの

一等星こと座の「ベガ星」とわし座の「アルタイル星」が輝いているのです。

クリスマスの頃、夕暮れの西の空に見えますが、日々地平線に沈む時間が早くなっていきますので、早めに見てください。

明け方の空には、金星が明けの明星として輝いています。6月に「はやぶさ」が長い旅の果てに地球に戻り、更に小惑星イトカワの物質を持ち帰ることに成功したとして、人々を感動の渦に巻き込んだのは記憶に新しいところです。

先頃、日本が打ち上げた惑星探査機「あかつき」はまもなくこの金星に到着し、観測を開始します。

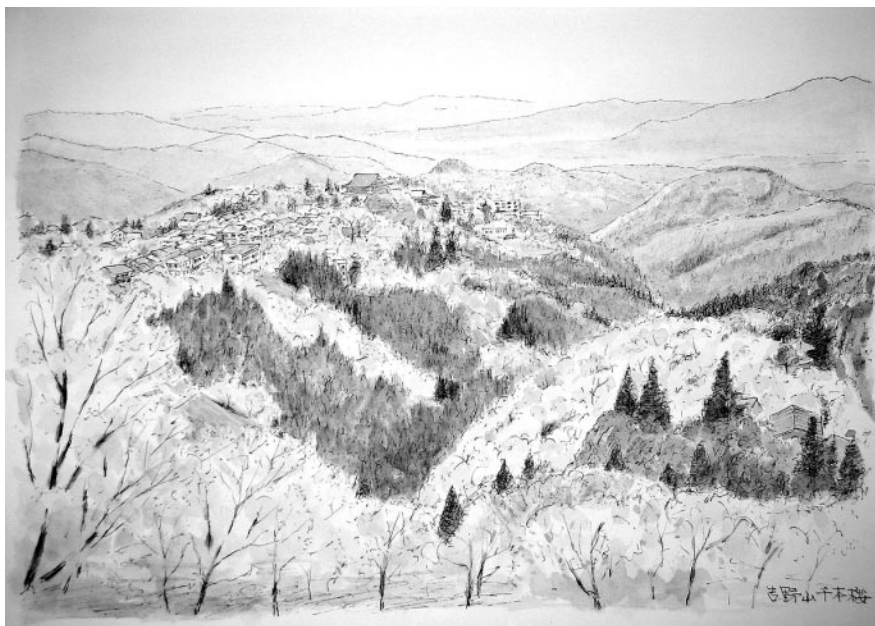
さらにもう一機の同乗探査機「イカロス」も金星に向かって航行中です。

「イカロス」は世界初の宇宙空間を航行する帆船です。太陽から吹き出る太陽風や光を受け、目的地に効率よく航行し到着させるミッションです。こちらも現在順調に航行中だと聞いています。成功すれば、「はやぶさ」と同じように注目されるでしょう。

平成23年は正に金星が“きんぼし”として幸運をもたらしてくれるかもしれません。

星空には夢や希望が限りなくあります。夜空に大きな夢を描いてみませんか。

Column



(提供：豊田氏)

吉野山

上千本から金峯山(キンブセン)寺蔵王堂を望む。桜の名称”吉野山”に行ったのは2008/4/11のこと。妻と一緒にだった。大阪の枚方を早朝に出発して、バスで中千本へ到着。中千本から対岸?の如意輪寺へ向かう。この時期平野部の桜は1週間前に最盛期を迎えて散り始めているが、ここ吉野山はまだ早いかなと思いつつ来てみたのだが、中千本はちょうど満開。あちこちで弁当の包みが開かれていた。パンフレットなどによく使われる蔵王堂を望む景色を捜しつつ上千本へ向かった。

この日もスケッチ道具は持参していたが、かみさんも一緒だし、桜は見るのが一番。結局一度も開くことはなかった。

この絵は、それから2年あまりたった残暑厳しいなか写真を見ながら仕上げたもの。スケッチとは言わないかも。